
立教女学院小学校とボーネルンドが校庭を再開発 児童の発達段階にあわせて体力・知力・心力を育む「遊び場」として開設 ～ 子どもの遊びを科学的に考え、小学校の校庭を計画設計した初の事例～

遊具および玩具の輸入・開発・販売を行う株式会社ボーネルンド（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中西弘子）は、児童の健全な成長・運動能力の向上を目的として創立77年の伝統をもつ立教女学院小学校（所在地：東京都杉並区、学校長：清水良一）の校庭リニューアルを行いました。国内小学校では初となる、児童の発育段階にあわせ科学的な設計のもとに大型遊具を組み合わせ開発された「遊び場」を校庭の一部に設け、今学期より児童が使用を開始します。

今回リニューアルされた「遊び場」は、心身の発育状態が学年によって著しく異なる小学校の特性を考慮し、各発達段階によって変化する欲求、能力、行動パターン等を分析することで、1～6年生まですべての児童が自発的な「あそび」を楽しむことができるように設計されています。また児童の今後の身体能力の可能性を広げるため、遊具の域を越えた大型運動器具を複合的に組み合わせることで、生涯の日常動作に影響を与える基本的動作として提唱されている36種類の動作^(*)のほとんどを体験できる遊び場となっています。

「あそび」は「運動（スポーツ）」とは異なり、年齢・性別・発達段階・身体能力などに束縛されることなく、また誰に強制されることもない活動です。このような環境下でこそ生まれる、のびのびとした自由で楽しい「チャレンジ」や「成功・失敗」は、すべてが学びにつながり、心身の発育を促す貴重な経験となります。一方で、学年によって運動能力が大きく異なる小学校校庭では、安全かつ安心して遊ぶことができる環境配慮も必要です。

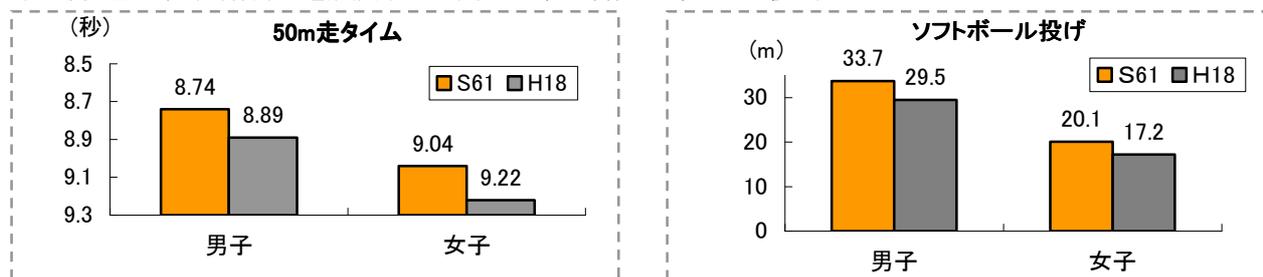
このため今回の遊び場開発では、子ども達の行動心理パターンを分析し、遊具やプレイマット（地面に敷かれた衝撃吸収表層材）の配色・デザイン・配置場所を計画的に設計することで、子ども達が自然と発達段階別に遊び場を使い分ける「ゾーニング」手法を取り入れています。さらに、あそびの過程で事故につながる危険性（ハザード）を徹底的に排除しつつ、冒険や挑戦といった今後の発達に必要な危険性（リスク）は十分に体験できるように設計しています。

【立教女学院小学校に新設された遊び場の俯瞰イメージ】



近年、子どもの体力・運動能力低下が大きな問題となっています。体の発達には、10歳までにいかに多様な動作を行うかが重要となります。特定のスポーツでは限定的な動作に偏ってしまう場合があります、また強制力や制約を強いものでもあるため、自由かつ自発的に活動し多様な動作を身に付ける「あそび」の機会こそが、子どもの発育にとって不可欠な要素とされています。現在顕在化している体力・運動能力の低下問題は、本来あるべき自然豊かな遊び場が急速に失われている都市化が原因のひとつと指摘されており、この中で学校の校庭や公園など身近な遊び場が果たす役割は重要度を増しています。

〈11歳児童の平均的体力・運動能力 —昭和61年と平成18年との比較—〉



(出典：文部科学省「平成18年度体力・運動能力調査」)

立教女学院小学校にこの度新たに設置された遊具は、子ども達の運動量と運動種類を増加させ、体力・運動能力の向上を促進します。自発的に挑戦したり新たなあそびを創造したりする行動力や発想力の育成、集団行動や異年齢の交流を通じた助け合いや思いやり精神の育成も促します。また、最近の子どもたちの遊びは、「大人を頼りにする」傾向があり、子ども独自の発想や協調による遊びが減少している傾向が感じられますが、今回の遊び場の完成を機に、大人の介在しない子どもの「遊びのせかい」を保障することで、子ども達同士の異学年交流も活発化し、子どもたちの豊かなコミュニケーション環境が実現するものと期待されています。

ポーネルドは、創業来から公共施設や商業施設における遊び場の開発事業を展開していますが、近年急速に失われつつある身近な遊び場の復興・拡大を目指し、今後当事業にさらに力を注ぐ予定です。国内の小中学校現場については、子どもがあそびを通じて心身発達を果たす最も大切な時期であるにも関わらず、あそびについて専門的な知識を有する人員が不足している現状があります。このような背景から、ポーネルドではこれまでに蓄積したあそびについての科学的データ、開発・運営ノウハウの提供を、特に小学校に向けて積極的に展開していく予定です。

* 36種類の動作

子どもの時代に身につけるべき動作として、山梨大学の中村和彦准教授が提唱している人間の基本動作。具体的には「たつ」「おきる」「とぶ」「はしる」などの基本的な動作から、「もつ」「なげる」といった物を使用するものまで、36種に分類している。

立教女学院小学校に新設された（校庭をリニューアルした）遊び場のイメージ図



【立教女学院小学校について】

立教女学院は、学校教育を通じてキリスト教の福音を伝えるという目的のもと、米国聖公会の宣教師 C.M.ウィリアムズ主教によって 1877 年に創立され、今年度は創立 131 周年を迎えました。小学校は 1931 年に創設されています。児童数は 434 名、専任教員数は 22 名で(2008/4 現在)、キリスト教の信仰に基づき、宗教的信念と情操を養い、あわせて女性にふさわしい人格、教養を形成することを教育方針と定めています。

【ボーネルンドについて】

ボーネルンドは、「あそび」の道具と環境を提供することを通して子どもの健全な成長に寄与することを目的に、1981 年に設立。幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や玩具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万ヵ所まで拡大しています。また同時に一般家庭向けにも、子どもの成長に必要な生活道具としての「あそび道具」を提案、全国 78 ヵ所で直営店舗を運営しています。2004 年からは、大型屋内運動遊技施設「インドアプレイグラウンド KID-O-KID（キドキド）」の開発・運営にも着手し、現在は全国 5 ヵ所にまで施設展開を広げています。

===== 報道関係の方のお問い合わせ先 =====

株式会社ボーネルンド
広報担当：村上 TEL：03-5785-0860 E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp

ボーネルンド PR 事務局（株式会社プラップジャパン）
担当：蛭川、山口、小林 TEL：03-3486-6868 E-mail：bornelund@prap.co.jp

立教女学院小学校
広報担当：八城事務長 E-mail：yashiro@rikkyojogakuin.ac.jp